

比類なき大学へ



TENURE TRACK



国立大学法人北海道大学
人材育成本部 研究人材育成推進室(L-Station)
〒060-0812 札幌市北区北12条西7丁目 中央キャンパス総合研究棟1号館1階
TEL:011-706-2352



URL: <https://integ.synfoster.hokudai.ac.jp/>

テニュアトラック制度とは？

公正で透明性の高い選考により採用された若手研究者が、審査を経てより安定的な職を得る前に、任期付の雇用形態で自立した研究者として経験を積むことができる仕組みをいいます。



文部科学省 科学技術振興機構ホームページ記事を元に作成
<http://www.jst.go.jp/tenure/about.html>

北海道大学の取り組み

本学は「北海道大学創基 150年に向けた近未来戦略」(北大近未来戦略150)の計画骨子に「若手研究者早期育成のための分野に応じたテニュアトラック制度の拡大」を掲げ、全学的な制度の普及・定着に取り組んでいます。

北海道大学 ウェブサイト
<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/150150.html>

理事挨拶

優秀な若手研究者の活躍のための先駆的実績



山口 淳二
 北海道大学理事・副学長
 人材育成本部長

北海道大学では、平成19(2007)年度から文部科学省補助事業「若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業(2007~2011)」の支援を受け、5年間の活動を通じてテニュアトラック制度の基礎を構築しました。それに続く「テニュアトラック普及・定着事業(2011~2019)」では女性研究者限定の公募等ダイバーシティーに特化したテニュアトラック公募や部局テニュアトラック認定制度の導入により、テニュアトラック制度の全学的な普及・定着に努めてきました。

これまでの14年間のテニュアトラック事業により本学が得た財産は大きく三つあります。一つ目は「優秀な若手研究者の活躍」です。本学のテニュアトラック国際公募では国内外から多くの研究者に応募をいただき、難関を勝ち抜いて採用されたテニュアトラック教員を育成・支援してテニュア職に送り出してきました。テニュア教員として部局着任後の若手研究者は、研究教育で成果を挙げるとともに所属部局の諸活動で重要な役割を果たし、幅広く活躍しています。二つ目は「所属部局や研究領域を越えた若手研究者の交流」です。本学では全学統一でテニュアトラック制度の利点を活かし早くから部局横断活動に力を入れてきました。その結果、同期採用のテニュアトラック教員を中心とした部局を超えた交流が活性化し、それをきっかけとして共同研究に発展するなどの学際化につながりました。三

つ目は「大学の国際化への貢献」です。本学で採用したテニュアトラック教員は、外国籍研究者の比率が高いことに加えて、日本人研究者でも半年以上の海外経験を積んだ研究者が多くいます。彼らは海外大学との協定締結や国際共同研究、異文化交流の橋渡し役として大きな役割を果たしています。

大学経営環境はますます厳しさを増していますが、研究人材育成は長期的な視点に立ち地道な積み上げが不可欠です。北海道大学は、令和8(2026)年度に創基150年という重要な節目を迎えますが、それに向けて改革戦略「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」(北大近未来戦略150)をまとめました。その中では「次世代を担う若手研究者などを支援・育成する」ことを計画骨子の一つとし、「若手研究者早期育成のための分野に応じたテニュアトラック制度の拡大」を掲げています。「北大近未来戦略150」を踏まえた第三期中期計画(2016~2021)においては、本学がこれまで培ってきたテニュアトラック制度をさらに発展させて、大学の研究力強化につなげてきました。今後、第四期中期計画(2022~2027)においても本学の若手研究者人材育成事業の一つの柱としてテニュアトラック制のさらなる活用を図る方針です。学内外の皆さまのこれまでと変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

事業実施責任者からのメッセージ

若手研究者の活躍で大学の持続的発展を実現



出村 誠
 北海道大学人材育成本部
 先端生命科学研究院 教授

本学が社会的責任を認識しつつ持続的な発展を遂げるためには、若い人たちの活躍が不可欠です。本学のテニュアトラック事業では国内外から優秀な若手研究者を採用して北大で活躍してもらうという流れをつくるために、テニュアトラック制度の全学的な普及・定着を推進しています。ノーベル賞受賞者の研究成果の多くは30代に行った研究とされており、北大のテニュアトラック制度はまさにその年代において研究に集中できる環境を手厚い支援体制で整えています。本学のテニュアトラック事業では若手研究者の研究環境整備や育成・支援に力を入れており、特にテニュアトラック期間においては、OJT型プログラムの積極的な参加や高校での授業や市民講座などの

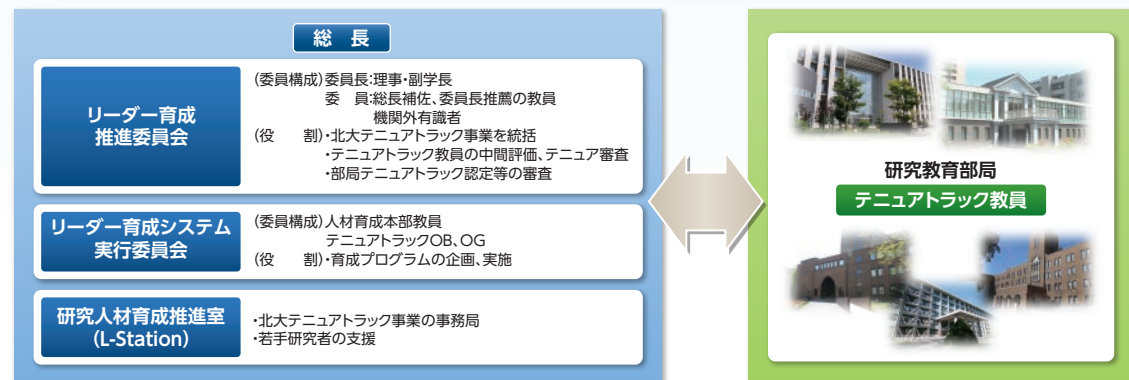
アウトリーチ活動に積極的に取り組むことによるマネジメント能力向上を重視しています。また、若手研究者同志の異分野・異文化交流にも力を入れています。研究分野や部局を越えた交流により研究者の視野は広がりさまざまな気づきや発想が生まれます。ディスカッションのプロセスの中で共同研究の芽を見つけ新しい分野横断型の共同研究が生まれることもあります。本学テニュアトラック事業では、異分野の研究者と積極的につながり、協調しながらリーダーシップを発揮できる人を求めています。自ら挑戦する熱いマインドを持った人と切磋琢磨してこれからの北海道大学をともに一緒ににつくっていきたく思います。

組織

テニュアトラックの普及・定着を全学的な体制で推進します

北大テニュアトラック事業は、リーダー育成推進委員会が統括します。本委員会は、理事・副学長を委員長とし、総長補佐、委員長推薦の教員、機関外有識者で構成され、テニュアトラック事業を統括し活動方針を定めるとともに、テニュアトラック教員の中間評価、テニュア審査、部局テニュアトラック認定等の審査を行います。

リーダー育成システム実行委員会は人材育成本部教員とテニュアトラックOB&OGより構成され、育成プログラムを企画・実行するとともに、OJT型プログラムの申請審査やアドバイス等を行います。研究人材育成推進室(L-Station)は事業の事務局機能を担うとともに若手研究者を支援します。



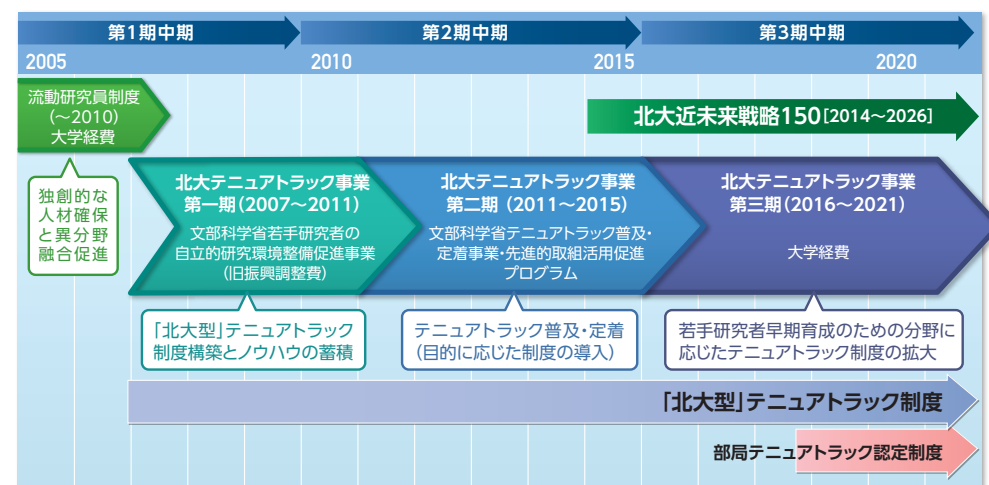
歴史

三期・14年にわたって実績と経験を積みました

本学の若手研究人材育成事業は平成14(2002)年にスタートした流動研究員制度にさかのぼり、そこで培った独創的な人材を採用し異分野間の融合を推進する精神が、北大テニュアトラック制度の基礎となりました。

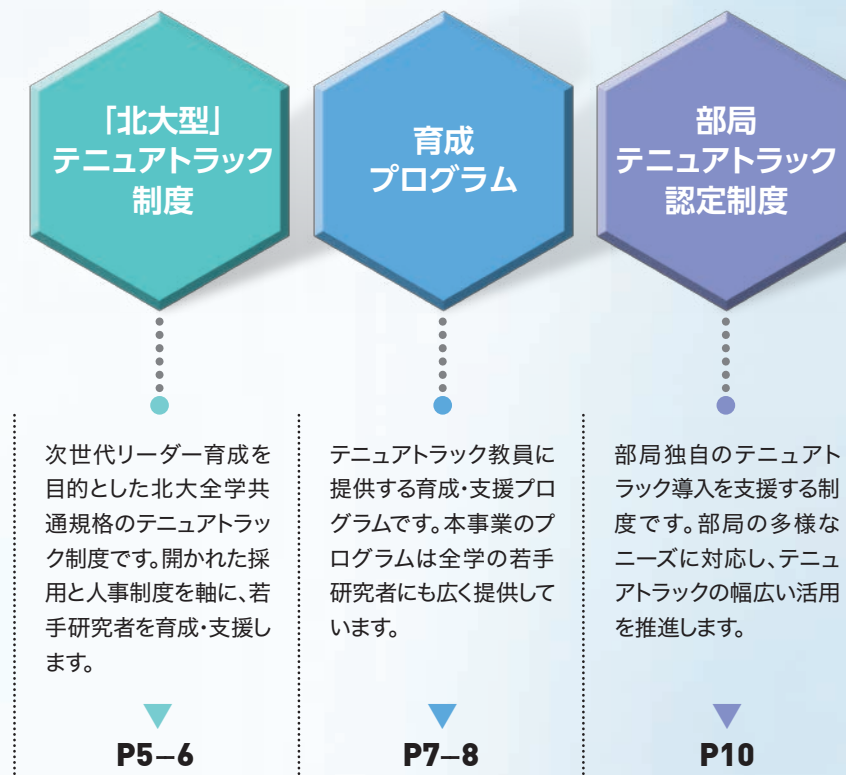
北大テニュアトラック事業は平成19(2007)年に文部科学省・若手研究者の自立的な研究環境整備事業の採択で本格化し、第1期中期期間においては制度構築とノウハウの蓄積を行いました。

それに続く第2期中期期間では文部科学省の補助事業の支援を得て多様なテニュアトラック制度を構築し、制度の全学的な普及・定着に取り組みました。補助事業終了後の第3期中期期間では部局のテニュアトラック制度の導入を支援する「部局テニュアトラック認定制度」が構築され、令和元年(2019)年度から運用しています。



北大テニュアトラック 三つの柱

本学のテニュアトラック事業は、
 全学共通規格の「北大型」テニュアトラック制度、
 幅広い活用を目指した部局テニュアトラック認定制度と
 すべてのテニュアトラック教員を対象とした
 育成・支援プログラムの三つの柱で構成されています。



「北大型」テニュアトラック制度

次世代リーダー育成のための北大独自のシステムです

「北大型」テニュアトラック制度は次世代リーダー育成を目的とする制度で、目指すテニュア像を右のように定義しています。

1. 融科学領域の研究・教育を推進する大学の次世代リーダーであること
2. 本学が社会に対して果たすべき役割を判断・企画・遂行する次世代リーダーであること

本制度は、「開かれた採用」「人事制度(中間評価、テニュア審査)」「育成プログラム」「研究環境整備と研究支援」の四つを柱とし、その相乗効果によりテニュアトラックシステム全体を効果的、効率的に運営します。

本制度では、「テニュアトラック教員の採用」から「中間評価・テニュア審査などの人事制度」に至るテニュアトラックのすべてのプロセスをリーダー育成推進委員会が統括します。



1. 開かれた採用(国際公募、二段階審査)

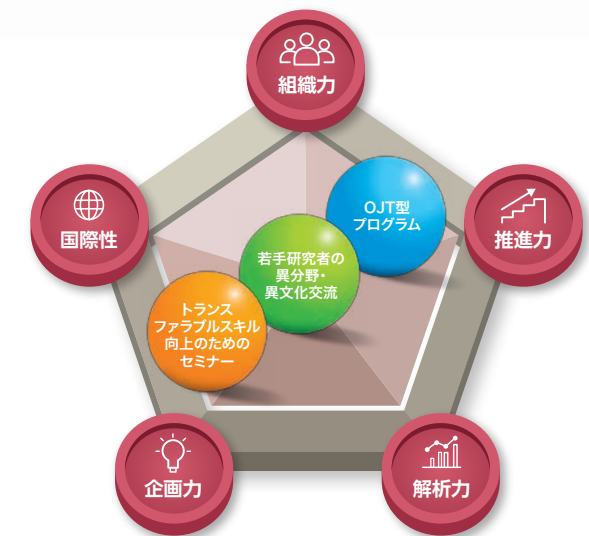


「北大型」テニュアトラック制度では国内外から広く優秀な人材を積極的に公募し、公正で透明性の高い選考によりテニュアトラック教員を採用します。本制度における国際公募は研究人材育成推進室(L-Station)が全学一括して行います。候補者の審査は二段階で行い、第一段階審査では事業参加部局の人材選考委員会が研究面を中心に書類選考・面接により審査します。第二段階審査ではリーダー育成推進委員会にてリーダーとしての総合力を審査します。

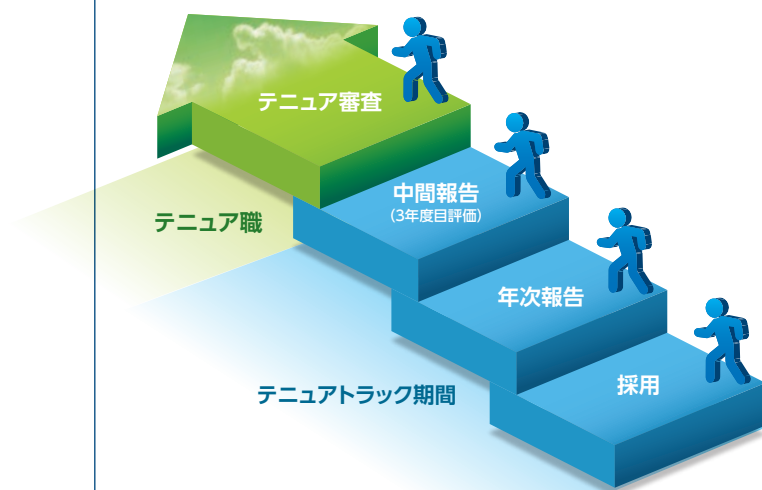


テニュアトラック教員は「研究能力」「教育能力」に加え、リーダーとしてのマネジメント能力が求められます。マネジメント能力向上のためにOn the Job (OJT)型プログラム、異分野・異文化交流やトランスファラブルスキル向上のためのセミナー等が提供されます。テニュアトラック教員は本プログラムに取り組むことにより研究者の総合力、すなわち、「組織力」「推進力」「解析力」「企画力」「国際性」をバランスよく向上させます。「育成プログラム」への取り組みも中間評価、テニュア審査における審査の観点に含まれています。

3. 育成プログラム



2. 人事制度(中間評価、テニュア審査)



「北大型」テニュアトラック制度ではテニュアトラック期間の中間年度で中間評価を行い、最終年度までにテニュア審査を行います。中間評価とテニュア審査はいずれも事業参加部局と推進委員会の二段階で行います。中間評価においては研究・教育に加えて育成プログラムの取り組みに関することも審査の観点に含まれており、審査結果は書面でテニュアトラック本人にフィードバックされます。テニュア審査に合格したテニュアトラック教員は事業参加部局のテニュア職に着任します。テニュアポストは採用時に担保されています。本制度によるテニュアポストは原則として准教授としていますが、部局の人事の状況等を踏まえて、講師、助教をテニュアポストとした公募を行うこともあります。また、業績が優秀であれば、中間評価以降最終年度までの間に早期テニュア審査を行うことがあります。



研究環境整備・研究支援は「アドバイザー任命」「スタートアップ研究費の支給」「OJTプログラム経費の支援」「エフォートの確保」「共用機器等による研究支援」が柱です。テニュアトラック教員には採用決定後すみやかにアドバイザーが任命され、研究や教育、マネジメントに関する相談に応じます。また、L-Stationにはテニュアトラック教員のための専任のメンターを配置し、相談に応じます。着任後はスタートアップ経費として研究費(初年度と二年度目)が支給され、研究エフォートは60%以上と定められています。本学の共用機器の利用環境を提供する「グローバルファシリティーセンター」については下記URLを参照ください。

- グローバルファシリティーセンター
URL: <https://www.gfc.hokudai.ac.jp/>

4. 研究環境・研究支援



育成プログラム

スキルアップとネットワーク拡大のために多様なプログラムを提供します

育成プログラムは「On the Job型プログラム(OJT)」「異分野・異文化交流」「トランスファラブルスキル向上のためのセミナー」で構成されます。

育成プログラムが三本柱で構成されているのは意味があります。これらは互いに密接に関連しているからです。たとえば、研究者同志の異分野・異文化交流で生まれたアイデアによってOJT型プログラム支援制度等を活用した共同研究に着手できます。

「OJT型プログラム」「異分野・異文化交流」の実施状況により、テニュアトラック教員が必要とするスキル獲得のためのセミナーを企画します。

育成プログラムは、テニュアトラック教員以外の若手研究者にも広く提供しています。また、名古屋大学、東北大学とも共同の交流イベントやセミナー等を相互活用しています(コラム参照)。



1

トランスファラブルスキル向上のためのセミナー

トランスファラブルスキルとは、課題発掘力や解決力などの対課題スキル、自己管理スキル、コミュニケーション能力等の対人スキルなどを総称し、仕事によらず移転可能な能力を指します。L-Stationでは、トランスファラブルスキル向上のためのセミナーを開催しています。セミナーの内容は、若手研究者との面談やアンケート結果をもとにして研究・教育現場で直面する課題を念頭に企画します。

トランスファラブルスキル向上のためのセミナーはテニュアトラック教員以外の若手研究者にも広く公開しています。また、人材育成コンソーシアムを形成する東北大学、名古屋大学と相互利用することもあります。



■次世代研究者のためのSDGsセミナー [2021.2 オンライン開催]



■デールカーネギー・ジャパンによるコミュニケーションセミナー [2020.12 オンライン開催]

2

異分野・異文化交流活動

北大テニュアトラック事業では早くから部局横断の研究者交流、異分野・異文化交流に力を入れてきました。また、SDGsを切り口とした交流イベントも推進しています。異分野の研究者、研究者以外の方との交流の機会を持つことにより、視野が広がり、研究者としての活躍の幅をさらに広げることができます。

交流イベントでは、自分の研究テーマを異分野の研究者にわかりやすく解説します。個性的で、若手研究者のみならず、大学研究者を目指す学生・大学院生にもぜひ参加してほしいイベントです。若手研究者は質疑を通じて互いの研究の理解を深め、部局横断的な新しい共同研究の発展にもつながることもできます。テニュアトラック教員はこれらのイベントへの積極的な参画や交流活動への主体的な取り組みを期待されています。



Column 科学技術人材育成のコンソーシアム構築事業

本学は、東北大学、名古屋大学とともに文部科学省「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業(次世代研究者育成プログラム)」に採択され、平成26(2014)年度より「連携型博士研究人材総合育成システムの構築」事業に取り組んできました。この事業は、三大学が「コンソーシアム」を形成し、互いの研究人材育成資源を集結して、多様な分野を対象にした次世代研究人材育成システムを構築するものです。北大テニュアトラック事業とコンソーシアム構築事業の相乗効果により、育成プログラムをさらに充実させていきます。



■次世代研究者シンポジウム2020における発表者の皆さん [2020.10 オンライン開催]



3

On the Job型プログラム(OJT)

OJTとは実務を体験しながら仕事を覚える手法です。北大テニュアトラック事業では、若手研究者のマネジメント能力向上を目的としたOJTを重視し、その実施を支援する制度を設けています。たとえば、シンポジウムやワークショップ・セミナーの開催等に係る経費を支援し、それらの企画、開催するためのプロセスを通じて、企画力、マネジメント能力、交渉調整力などの専門力以外のスキルを獲得します。

テニュアトラック教員の企画提案は実行委員会が審査し、採用された提案の実施経費はL-Stationが支援します。実行委員会は採否に関わらずテニュアトラック教員に対してコメントやアドバイス等をフィードバックします。

支援対象となるOJTには以下の種類があり、テニュアトラック教員は業務の必要に応じて活用可能です。

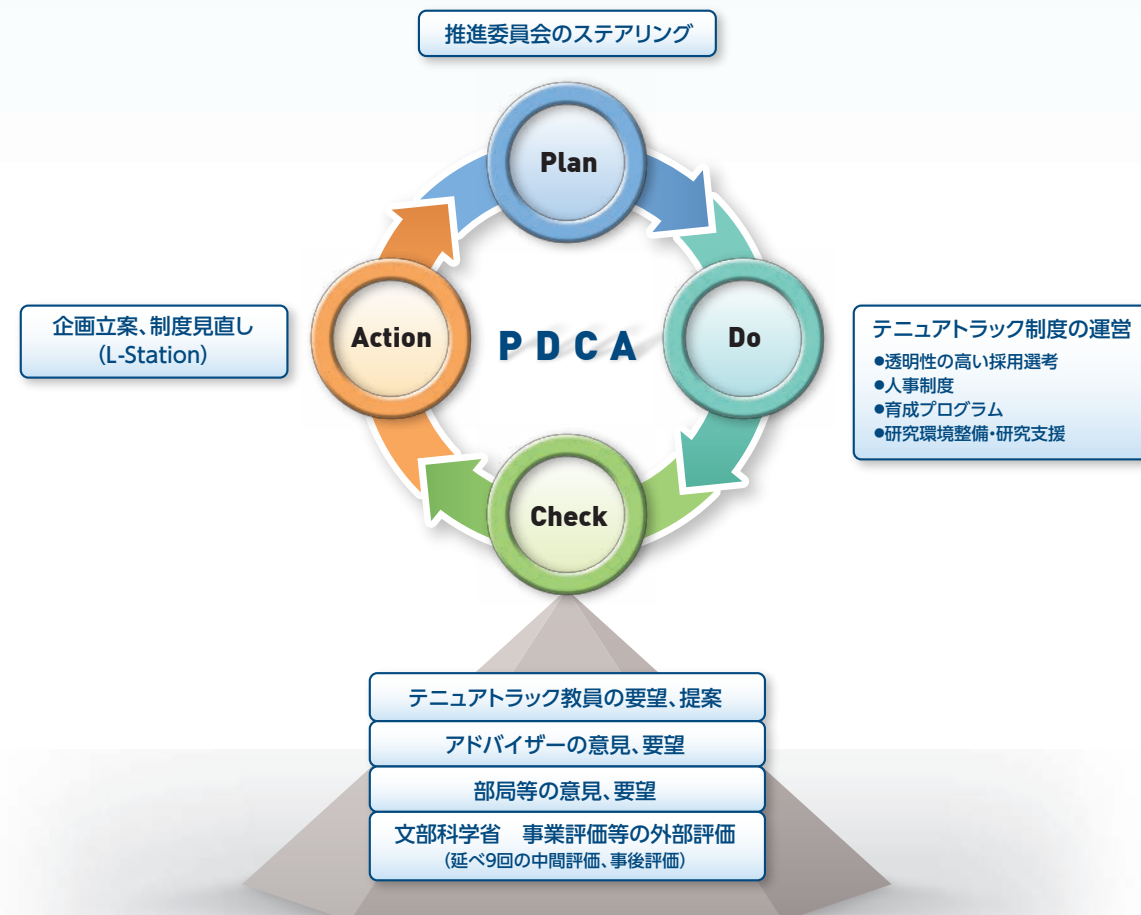
- 国際研究集会等開催支援制度**
北海道大学において研究者が企画する国際研究集会を開催するための経費(海外研究者招へい旅費、通信費、オンライン発表物制作費等)を支援します。
- 国際連携支援制度**
研究者が海外の研究機関と連携して共同で国際的な研究事業(研究助成)の応募(申請)に要する経費(主として旅費等)を支援します。
- 連携大学共同研究支援制度**
研究者が東北大学、名古屋大学の若手研究者と共同研究に取り組む際の研究費の一部(旅費、デモ試作のための経費等)を支援します。
- ウェブサイト構築支援**
研究紹介のためのウェブサイト作成経費を支援します。

北大テニュアトラック制度のPDCA

制度改革を積み上げることで安定した運営基盤を築きます

制度設計や運営はPDCAが不可欠です。本事業においては特に「Check」のプロセスを重視し、「政策の方向性」や「文部科学省補助事業の中間、事後評価」を分析するとともに、「部局の意見、要望」や「アドバイザーやテニュアトラック教員の声」など現場の声を取り入れることにより、継続的に北大テニュアトラック制度の制度改善に取り組んできました。

北大テニュアトラックの三本の柱、すなわち、「北大型」テニュアトラック制度、育成プログラム、「部局テニュアトラック認定制度」はいずれもPDCAによる「改善」を重ねた結果が完成度を上げてきました。そして、変化の激しい世の中の動きや大学を取り巻く環境の変化に対応して、今後も改善の積み重ねが重要であることはいまでもありません。



Column 文部科学省 若手研究人材育成事業

本学は平成19(2007)年に文部科学省「若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業」に採択され、「北大型」テニュアトラック制度の基礎を構築するとともに制度運営のノウハウを蓄積しました。この取り組みは事後評価において高く評価され、総合評価「S」と判定されました。平成23、24、25、27年度には文部科学省「科学技術人材育成費補助事業」(テニュアトラック普及・定着事業)に採択され、部局を活動拠点とした「部局型」テニュアトラック制度を構築しました(現在は「総合型」「部局型」の両方を「北大型」と総称)。本学は「北大近未来戦略150」にテニュアトラック制度の拡大を掲げ全学的な活動を継続するとともに、平成31(2019)年4月からは新たに「部局テニュアトラック認定制度」をスタートしました。これらの「テニュアトラック制を継続する仕組み」は文部科学省によるテニュアトラック普及・定着事業の機関事後評価において高く評価され、総合評価「A」と判定されました。

部局テニュアトラック認定制度



部局独自のテニュアトラック制度導入を支援します

部局テニュアトラック認定制度は、部局独自のテニュアトラック制度導入の支援を目的に令和元(2019)年度に導入されました。部局テニュアトラック制度では「テニュア像」や「テニュアトラックポスト」「テニュアポスト」を部局独自に設定することができますので、部局の戦略に応じて人材に係る選抜審査、中間評価、テニュア審査を執り行うことができます。一方、人材育成本部が提供す

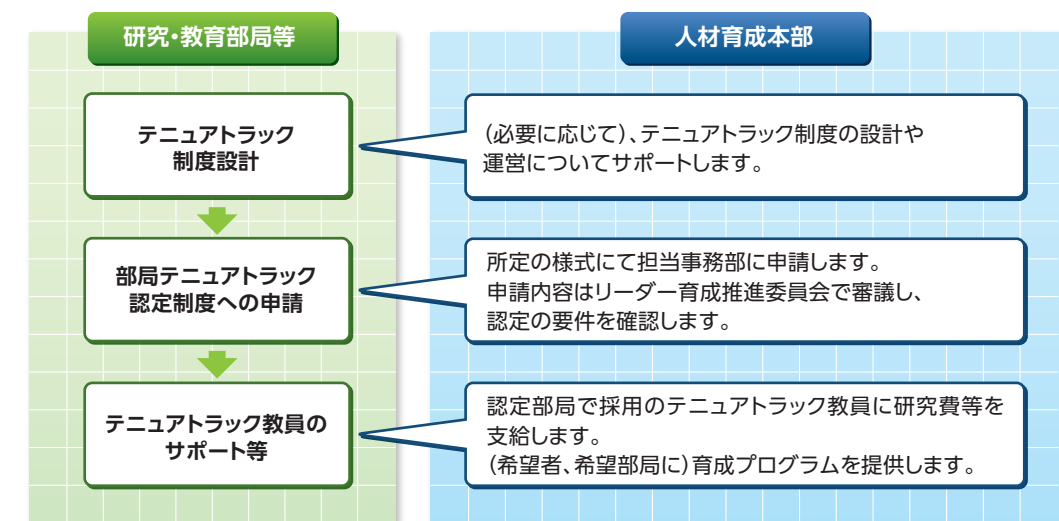
る「育成プログラム」「支援制度」は、各テニュアトラック教員が任意で参加することができます。

認定を受けた部局も「北大型」テニュアトラック制度を利用できますので、目的に応じて両制度を使い分けることも可能です。

■ 認定のプロセス

認定を受けようとする部局は所定の様式に必要事項を記入の上、必要書類とともに担当事務部に提出します。テニュアトラック制度の導入時の制度設計の際は、必要に応じて人材育成本部、担当事務部がサポートします。

部局からの申請内容はリーダー育成推進委員会が審査を行い、所定の要件が満たされているかを確認します。認定を受けた部局に所属するテニュアトラック教員は人材育成本部より研究費等の支援を受けることができます。



■ 認定の要件

本制度の認定要件は下記のとおりです。

- 1 テニュアトラック制度の規程を整備すること
- 2 テニュアトラック教員のテニュアポストを確保しておくこと
- 3 テニュアトラック教員の自立的な研究環境を構築すること
- 4 原則として雇用後5年間は研究活動に関するエフォートが50%以上であること
- 5 部局アドバイザーを配置すること
- 6 中間評価を行うこと
- 7 公正で透明性の高いテニュア審査を行うこと
- 8 テニュアトラック教員の育成計画があること

実績

テニュアトラック制度は全学的に普及・定着してきました

本学では「北大型テニュアトラック制度」、及び「部局テニュアトラック認定制度」の二本立て戦略により、テニュアトラックを学内に広く浸透させてきました。これは、事業関係者の努力だけで成し遂げられたことではなく、学内の多くの教職員の理解と協力があったことです。

また、テニュア職に就任したテニュアトラックOB&OGがリーダー育成システム実行委員会に参画し、若手研究者育成の新たな担い手となっています。このように、テニュアトラックを通じた「縦の関係」は、今後の北大の発展のためにますます重要になってくると思います。

■事業参加部局

北大型テニュアトラック制度の実施部局は、制度を構築した平成19(2007)年度からその数を増し、令和3(2021)年1月末現在で15部局に達します。また、「部局テニュアトラック認定制度」

は導入後の1年半で「北大型」実施部局の約半数が認定済み部局となりました。(青字は部局テニュアトラック認定済)

■北大テニュアトラックを実施した部局

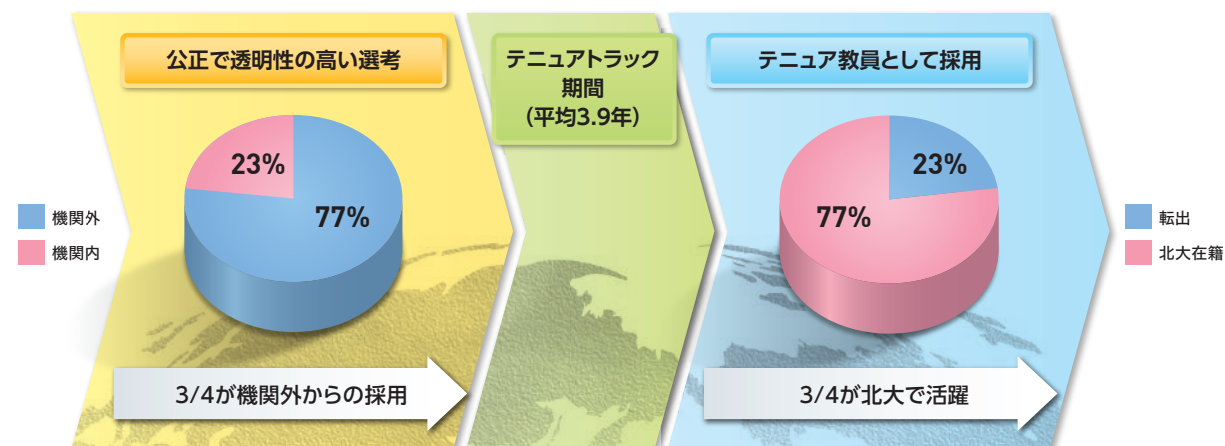
- 理学研究院
- 地球環境科学研究院
- 薬学研究院
- 電子科学研究所
- 先端生命科学研究院
- 工学研究院
- 情報科学研究院
- 遺伝子病制御研究所
- 医学研究院
- 獣医学研究院
- 水産科学研究院
- 北極域研究センター
- 農学研究院
- 歯学研究院
- 経済学研究院

■テニュアトラック教員のキャリアパス

本学では機関内外から多くの若手研究者をテニュアトラック教員として採用し、テニュアトラック期間中に研究、教育、マネジメントの力をつけて業績を挙げ、テニュアポストに送り出してきました。本学採用のテニュアトラック教員は77%が機関外からの採用で、テニュアトラックポストが「広く開かれている」ことを示してい

ます。また、テニュア職獲得後は77%が北大に在籍し各部局で活躍する一方、23%は新たなポストを得て機関外に転出しています。活躍の場が機関内外に関わらず、テニュアトラック期間の経験はテニュア後の研究者人生にも大いに活かされていると確信しています。

■テニュア職着任者のキャリアパス(2021年1月現在)



テニュアトラック教員インタビュー



大学院 獣医学研究院 生化学教室
戸田 知得 テニュアトラック助教

- 専門研究 / 脳が血糖値を感じるメカニズムの解明
- テニュアトラック採用 / 2016年度

自由な環境を用意してくれた大学に成果を還元

総合研究大学院大学の生命科学研究科で博士号を取り、生理学研究所、Yale大学医学部の博士研究員を経て平成28(2016)年から北大獣医学研究院の助教を務めています。私の場合、先に文部科学省が平成28(2016)年度から始めた卓越研究員事業で採用された後、本事業の「北大型」テニュアトラック制度に加わりました。メンター教員には、私自身の采配で研究を進められる自由な環境を用意していただき感謝しています。「若手研究者が自立して研究を推進できるような環境を実現する」という卓越研究員事業本来の目的に沿った日々を過ごせたと実感しています。

学生指導に本格的に関わるようになったのは北大に来てからです。自分が指導する立場でチームを率いてみると上の人間の言い方一つで学生たちの感情がよくも悪くも動くことをあることを改めて感じました。それでも、研究熱心な学生たちが期待以上に良いデータを出してくれたおかげで内容が深まった論文を書くことができ、先日、英国の科学専門雑誌にアクセプトされました。他に特許申請中の研究成果もあり、研究活動における学生の力と可能性を再認識できたテニュアトラック期間でした。

若手時代には、チャレンジングなテーマに集中して取り組める研究環境と、理解のある上司や体制と少し長めの研究期間があれば面白い研究成果が出てくると思います。その成果をたずさえて環境づくりをサポートしてくれた大学側に還元していきたいです。



大学院歯学研究院 口腔病態学分野 血管生物分子病理学
間石 奈湖 テニュアトラック助教

- 専門研究 / 腫瘍血管内皮細胞の特異性とがんの転移との関連・新規腫瘍血管内皮マーカーの探索
- テニュアトラック採用 / 2019年度

テニュア制度で子育てと研究を両立

北大テニュアトラック事業のことは以前、同じがん研究の領域におられる分子生物学者で北大テニュアトラックのOGである三浦恭子先生から聞いていました。平成30(2018)年の夏、第一子の産休中に応募書類を申請し、プレゼンの準備は子どもの世話をしながら進め、プレゼンの時は実母に来てもらって子どもの面倒を見てもらい、育休明けの平成31(2019)年4月から採用されました。テニュアトラック制度は支援が手厚く、採用後はスタートアップ経費で研究室の院生をRAとして雇用したり、器材を揃えて研究促進に必要な環境を整えることができました。

昨年度から新たに臨床現場での病理診断にチャレンジし、自分のできることを増やしている段階ですが、アカデミックの世界でキャリアパスをどう描いていくのかは、まだ試行錯誤の最中です。

メンター教員のパワフルで時には親心のようにも思える温かいご指導を長年受けていると、気がつけば私自身も院生に同じような口調で話していることがあり、「似てきたかも」という自覚があります。医療分野の学生は各免許を取得すると、若くして社会的に「先生」と呼ばれるポジションになります。これから出会う患者さんや仕事仲間、そして本人のためにも一社会人として必要なことをしっかりと身につけてから巣立ってほしい。その思いで日々接しています。

令和3(2021)年4月からは第二子の産休に入り、本事業もいったん小休止をいただきます。何も女性研究者であることを前面に押し出すつもりはありませんが、本事業などの力を借りて、純粋に誰もが将来の選択肢を増やせる環境にいられたら、各研究者の力もさらに発揮できるのではないかなと感じています。

OB&OGインタビュー



北海道大学 大学院理学研究院 数学部門
坂井 哲 教授

- 専門研究/相転移・臨界現象の数学的に厳密な解析、特に臨界次元直上の対数補正の導出
・同時スピン更新に基づく基底状態の探索方法と精度評価の確立
- テニュアトラック採用/2007年度

部局にいただけでは得られなかった刺激で成長

北大テニュアトラック事業が公募を始めるという話は、同じ研究分野でお世話になった東北大学(2006年当時)の先生からうかがいました。イギリスからそろそろ帰国することも考えていましたし、当時の私は36歳。一般的な助教職を得るには年齢的に厳しいこともあり、トライする気持ちになりました。私が在籍していた当時、テニュアトラックの実施拠点であった創成研究機構は札幌駅や部局からも遠く、研究にほどよく没入できる理想的な環境で、任期中に研究を大きく進展させることができました。

その一方でテニュアトラック教員同士の交流会も積極的に行われており、私も生物科学の千葉由佳子先生と共同研究を行いました。現在進んでいるCRESTの共同研究「学習/数理モデル

に基づく時空間展開型アーキテクチャの創出と応用」(東京工業大学の本村真人先生が代表)も、部局だけに閉じこもっていたならば絶対にお声がかからなかったプロジェクトだと感じています。

ティーチングに関しては海外時代にすでに授業を持たされていたことと、数学という分野が常に研究と教育の両輪で継続していくものだという自覚があったため、初めから抵抗感なく取り組みました。現在の時局が求めている研究者像が内向な超専門家集団ではなく、異分野同士が広くつながっている有機体のようなものだと考えると、その受け皿となるプラットフォームの必要性は極めて大きいと感じます。部局にいただけでは得られない他者からの刺激や影響は研究者の成長に欠かせないもの。自分も若手を育てる立場になった今だからこそ、研究者の世界を広げてくれる空間づくりの必要性を実感しています。



東北大学 大学院 生命科学研究所
田中 良和 教授

- 専門研究/クライオ電顕を用いた構造生物学研究
- テニュアトラック採用/2007年度

骨太の研究者を育てる豊かな土壌

東北大学で博士号を取得した私は、平成16(2004)年からX線結晶構造解析に強い北海道大学大学院理学研究科に研究員として所属しました。その後お世話になった東北大学の指導教員の先生が東京大学で新しくラボを立ち上げることにになり、そこでポストクをしていたところに北大時代の部局の先生から「北大で新しくテニュアトラック事業が始まることになった。すごいシステムだからチャレンジしてみては?」と声をかけてもらいました。

北大のテニュアトラック事業の第一期だったということもあるかもしれませんが、採用後に一番とまどったことは、我々テニュアトラック教員に与えられる課題の幅広さです。助教である我々若手に実際に授業を担当させることにも驚きましたが、それ以外にも国際シンポジウムの企画や北大総長への提言など、思ってもいな

かった課題が次々と下りてくる。「一体何のためにこんなことを?」と当時は半信半疑でしたが、今思えば、将来的に必要な経験値を高めてくれたのかと関係者の方々に感謝するばかりです。

テニュアトラック期間終了後は北大大学院先端生命科学研究所の准教授になり、科学技術振興機構さきがけも兼任しましたが、そこに応募しようと思ったのもテニュアトラック時代のメンバーにさきがけ採用者が多かったから。皆さんからお話をうかがううちに「いつか自分も!」というモチベーションが高まっていったからです。また同期の1人が「エクセレント・ティーチャー」に選ばれたのを知り、自分も教育により力を入れるなど、身近な目標となってくれる優秀な仲間が大いに刺激を受けたテニュアトラック時代でした。さまざまなことに挑戦する機会を与えていただき、トップクラスの仲間と互いを磨き合う。骨太の研究者を輩出しようとする豊かな土壌を用意してくれた本事業の皆様に、心より感謝申し上げます。



北海道大学 大学院理学研究院 化学部門
前田 理 教授

- 専門研究/反応経路自動探索法の開発と様々な化学現象への応用
- テニュアトラック採用/2011年度

集中と交流を進める環境の大切さを実感

北大テニュアトラックに応募する以前は、京都大学の次世代研究者育成支援事業「白眉プロジェクト」に所属していました。こちらも若手研究者を対象に最長5年間の研究活動に没頭できる良い研究環境でしたが、テニュア職に就ける確約はなく、東北大学時代のスーパーパイザーの先生から北大テニュアトラック事業を勧められ、こちらの公募にチャレンジしました。採用後は研究活動以外にも授業を持つ教育や国際シンポジウムの企画など、レンジの広い課題が与えられました。特にシンポジウムの企画は教授クラスになってからやるもの、というイメージがありましたので、自分が主催者となったのはこの時が初めてでした。現代の研究者に求められる要素、教育やアウトリーチの重要性を全般的に教わったという印象です。肝心の研究活動のほうも、採用直後のスタートアップに潤沢な予算を与えていただき、研究に必要な機材を揃えられたことは大きな弾みになりました。白眉時代に生まれた研究アイデアをさらに発展させて、2年後にはJST-CREST「新機能創出を目指した分子技術の構築」が採択されました。この成果を得てテニュアトラック期間を終えたのちは、大学院理学

研究院の准教授、教授となり、現在は平成30(2018)年から10年間続く大型の国際研究拠点「化学反応創成研究拠点」、通称WPI-ICReDD(アイクレッド)で拠点長を務めています。テニュアトラック期間は白眉時代と同じように自由でオープンな雰囲気の中、教員同士の交流も進みました。テニュアトラック同期の瀧川一学先生にはWPI-ICReDDメンバーとしても引き続き力を貸してもらっています。

いま自分が大型プロジェクトを動かし、下を育てる立場になると、各自が研究に集中できる環境と異分野交流が進む環境の両方が大切だと考えるようになりました。本事業の助教時代は前向きな自意識を周囲も自分も持っており、その空気感もあって比較的シニアの方々が対象となるJST-CRESTにも躊躇することなくトライできたように思います。ただ、日本のテニュアトラックのテニュアポストは准教授職が多く、教授職までさらに長い道のりが続きます。私の場合は幸運にも北大が計算化学の分野に投資するという意味もあり、比較的早い段階で現在のポストを用意してくれたと感じていますが、教授職までのキャリアパスを描けるテニュアトラックも必要だと思います。



L-Station とは

人材育成本部研究人材育成推進室(L-Station)は、北大テニュアトラック事業の推進役として、以下の業務を担当しています。

- テニュアトラック教員の採用計画や国際公募に係る業務
- 評価・審査に係る会議の運営と制度管理
- テニュアトラック教員を含む若手研究者の交流推進
- 育成プログラムの企画、運営
- 若手研究者の研究環境整備と研究支援
- 事業推進に係る予算計画立案と管理

国際公募により採用されるテニュアトラック教員は研究分野だけでなく経歴や経験も実に多様で、そのため彼らが北大に着任後に直面する課題もさまざまです。L-Stationはそれに真摯に耳を傾け、ともに考え、解決に努めます。